

む人が沢山居る。生きなま^ヤと、希望を持つ
事ができ、笑顔と、生きる活力も持ったそう。
「大切な人からの口支え^ヒがあるから、私は
毎日を笑って、懸命に生きられるんです。^レ
彼女のその言葉を聞いた途端、私はふと、あ
る事を思い出した。

今年の七月、水泳部に所属する私は、
ものように練習をしていた。練習も一段落し、
休憩をしようとゴ^ッカ^ッルを外したところ、私
はある違和感に気付いた。右目の視界が、若

干白く霞んでいるように見えただ。左目は
鮮やかに景色を映し出しているのに、右目は
薄いすりガラスを被せた様な、朧^ハかな景色を
映し出している。違和感に気付いた瞬間、凄
しい恐怖が私を襲^ツった。自分の身に何か起^コ
ているのか。右目が見えにくい、一生このま
まなのか。私の人生は暗いものにな^ッてしま
うのか。その時、私に優しく「大丈夫？^レと
声をかけてくれた仲良しの友達がいた。彼女
は混乱している私に寄り添い、心配の言葉を

かけてくれた。やがて混乱が収まると、次は
湊まじい不安が私を襲った。もう何もかも終
わりかもしれない。そう思い顔色を悪くする
私に、彼女は最後まで私に寄り添い、励まし
の言葉をかけてくれた。そのお陰で、¹私ほ
一人い^やない。心が折れそうにな^ったけど、
希望を持^ってち^やんと生きよう^と、前向き
になれ、笑顔と、生きる活力を持^った。後
に眼科に行^った所、水が入^って眼球が少し傷付
いたが、¹心配する必要は無^から、¹という診
断が下され、症状も翌日には治ま^っていた。
私は、¹ほ^っと胸を撫^で下^ろした。
¹大切な人からの言葉、¹私
は毎日を笑^って、懸命に生きられるん^です^よ。
あの女性の言葉は、本当にその通りだと思^っ
た。不安で胸が^いっぱいにな^って、心が折れ
そうにな^った時、大切な人から、心配の言葉
や、励まし^の言葉をかけてもら^うなどの¹支
えが、¹私や¹あの女性^に笑顔^をくれた。¹そ
して、¹ち^やんと生きよう^と、生きる活力

も、与えてくれた。つまり、
「支え」は、
達の「笑顔」と「未来」を創ったのだ。
今、世界には、人生に希望が持てない、不
安で「胸が痛い」という人が沢山居ると
思う。例えば、何か障害を持つ人だ
たり、病気にかかっていたり、家に引
きこもっていたりしている人だ
たり、お金に困っている人だ
たり。彼女らがその様
な感情を持ち、苦しんでいると
は限らないが、私はその様な感情
を持ち、苦しんでいる人々
を「支え」てあげたいと思
った。私が友達に救われた様に、
私も誰かを救いたい。苦しんで
いる人々の持つ感情を一度経験
した事のあ
る私なら、何かできるか
もしれない。まずは
身近な人から「支え」て
いきたい。そして、
「つか」全ての人が「支え
る事」をする、つ
まり「支え合い」をすれば、
みんなが幸せな
すてきな世界ができて
いると思う。
「支える事」は、誰かの「
笑顔」と「未来」を創
る事なのだから。